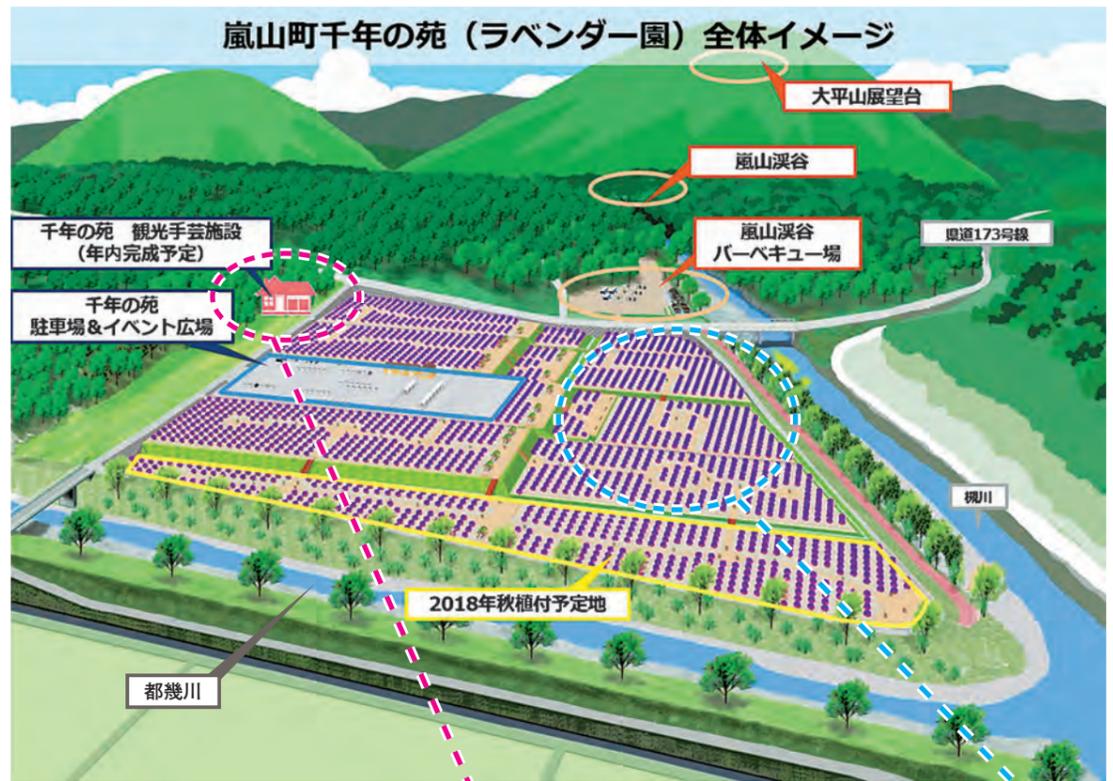


千年の苑ラベンダー園の全体像公開



散策路

散策路を上から眺めると町草（マリーク）が浮き上がります。また、ハートの形に白ラベンダーが植えられており、物見台を設置する来年の本格オープンには、フォトスポットとなりそうです。



上空から見た散策路(内田泰永氏より提供)

観光手芸施設

手芸施設では、摘み取ったラベンダーを使用したスティックやドライフラワーを使用した香り袋などの手芸教室を開催します。年内に完成予定です。



観光手芸施設

「千年の苑」オリジナルグッズ販売中

嵐山町ステーションプラザ「嵐なび」1階の観光協会で、ラベンダーグッズを販売しています。ラベンダースティック、シューズキーパー、バスケット、サシェ（香り袋）を取り扱っています。「嵐山」こだわり宣言として、嵐山町で育てたラベンダーを100%使い、町内の方々がこだわりを持って作った商品です。ぜひ、お立ち寄りください。



(左) シューズキーパー
(中) ラベンダースティック
(右) バスケット



サシェ（香り袋）

ラベンダー園の生産・管理に携わる方々

ラベンダー苗の生産者

苗は、嵐山農産物生産組合の花弁部会の方々が生産しています。生産者の中から中村保一さん（鎌形）にインタビューしました。

「千年の苑事業に参加しようと思ったきっかけは、」

(中) 町から事業について説明があり、大きな事業に自分も関わりたいと思い参加しました。自分の作った苗の一つひとつがラベンダー園となっていると思うと誇らしいです。(現時点で約4,000株が中村さんが生産したものです) 普段は無農薬野菜の生産を行っています。今はラベンダーが主力になっています。苦勞したことはどんなことですか。

(中) 同じように挿し木をしても、根がつくものもあれば、全滅するものもあります。細かく日誌をつけるようにして、研究を重ねています。



中村さんが生産する鉢植え (品種名、センチヴィア)

「プレオープンを振り返ってどうでしたか。」

(中) プレオープン中は、私が育てた苗を販売させてもらいました。対面販売で、お客さまと会話をするのは楽しく、とても勉強になりました。千年の苑には、私が苗から育てたものが植えられています。仙台からいらした人もいて、自慢のラベンダーを観てもらい、褒めてもらえました。

(中) ポット苗の他に鉢売りも拡大したいです。どんな品種が町にあるのか、研究して品種も増やしたいですね。また来園していただけるようにきれいなラベンダーを育てます。

ラベンダー園の維持・管理者

ラベンダー園の維持・管理は、(農)らんざん営農が委託を受けて行っています。維持・管理の作業主任である福島正浩さんにインタビューしました。

「プレオープンを終えた感想を教えてください。」

(福) 無事にラベンダーが咲き、正直ほっとしています。せっかく植えた苗が枯れてしまったり、カラスに引き抜かれたり不安材料がいくつもありません。プレオープンは終わりましたが、来年の本格オープンに向け、開花後の剪定(切り戻し)や除草などまだまだ作業が続くので、ゆっくりはしてられません。

「ラベンダーを管理するうえで大変だったことはありますか。」

(福) 株一つひとつに個性があるので、機械化できない作業がほとんどです。しかし、作業スタッフの皆さんたちが意欲的に取り組んでくれますので助かっています。いかに作業スタッフの皆さんに快く働いてもらうか、その段取りをとるのが私の役目です。作業してくださる方々の努力でこの事業も成り立



植え付けの様子



「大変な作業が多かったと思いますが、モチベーションはありましたか。」

(福) 自分たちが手がけたものが形になり、お客様に喜んでもらえるというのが励みになりました。「来年を楽しみにしています」という言葉には来年も頑張らなきゃなと思えました。

「福島さんにとってラベンダー園はどんな場所ですか。」

(福) 心穏やかに過ごせる場所であり、職場です。心穏やかに過ごせる場所であり、職場です。心穏やかに過ごせる場所であり、職場です。心穏やかに過ごせる場所であり、職場です。

最後にらんざん営農では作業スタッフを募集しています。日本一のラベンダー園と一緒に作り上げたいという方がいらっしゃいます。屋外での作業になります。気力と体力、花への情熱のある方、大歓迎です(詳細はP8)。